てんびんガイド 2025 だより

近江八幡観光ボランティア
ガイド協会　広報部発行

お問合せ
近江八幡駅
北口観光案内所
0748-33-6061
協会:HP/QR

1/8　新年祈願祭・日牟礼八幡宮にて

「新年にあたって」

近江八幡観光ボランティアガイド協会　会長　青木　紀夫

2025年の干支は、乙巳です。乙巳の年は、多くの人にとって成長と結実の時期となる可能性が高く「努力を重ね、物事を安定させていく」という意味合いを持つ年とされています。辛抱強さが試される年にもなります。また、蛇は、古くから「豊穣神・天候神」として信仰の対象とされてきました。脱皮する蛇は「復活と再生」を連想し、不老長寿や強い生命力につながる縁起のいい動物と考えられています。私自身も、乙巳の年に肖り脱皮する蛇のごとく「復活と再生」する生き方・考え方を少しでも取り入れていきたいと思います。

さて、今年の当協会事業関係につきまして、ご紹介させていただきます。

第1には、かねてから課題点になっていましたガイド経費（ガイド交通費を含む）の見直しをして、4月1日から改定させていただくことになりました。3時間までのガイド費→1,500 円；3時間を超えるガイド費→2,500円として、値上げ分を協会運営費に充当して、今まで以上に、組織の充実を図りたいと思っています。併せて、お客様から「八幡へ来てガイドをお願いして良かった」と思っていただけるように「おもてなしの心」を持ったガイドができるように、日々研鑽を重ねていきます。

第2には、「令和7年度近江八幡市観光ボランティアガイド協会総会」予定日のご案内です。
4月19日（土）午前10時から「八幡支部総会」；4月23日（水）午前10時から「通常総会」を「近江八幡市総合福祉センターひまわり館」で予定していますので、ご出席下さいますようよろしくお願いします。

第3には、令和6年度から実施の「新当日ガイド活動」について、広報面でも活用してPRに努めていき、ガイド数の増加を図りたいと思っています。また、会員が高齢化になってきていますので、「入会していただく機会や、その講座内容の見直し・充実」をしていきたいと思っています。

第4には、前年度同様の ①観光事業（通常ガイド；タイトルガイド；協力・支援・受託ガイド；ガイドスキル向上事業；ガイド心得など） ②研修事業（新入会員のための研修；ガイド現地研修；ふるさと観光塾；先進地研修など） ③運営事業　④広報宣伝事業　⑤紙芝居事業　⑥会務関係事業（総会；役員会；全体会；各部会；協会ホームページ更新など）を柱に実施していきたいと考えていますので、皆様方の一層のご指導と、ご鞭撻をよろしくお願いします。

末筆になりましたが、賛助会員の皆様には、私たちの活動に対して、日頃からひとかたならぬご支援、ご鞭撻を賜りまして誠に有り難うございます。

今年も引き続きよろしくお願い致します。

新年会（1/8 寛閑観にて）

余興　腹話術

研修旅行　石川県・福井県

研修部長　坂倉直人　　広報部　横井寿雄

金沢城菱

12月5、6日、金沢・福井への1泊研修旅行に29名が参加しました。 近江商人が開いた近江町市場で昼食をとった後、金沢城で現地のボランティアガイド3名の方に城内を案内いただき、城の歴史を学ぶとともに、ガイドの仕方も勉強になりました。ホテルに向かう途中で安宅関跡に寄り、中村保様の勧進帳弁慶と義経のくだりの詩吟を聴いて、現地の雰囲気と夕闇が相まって、物語が目に浮かんできました。地震復興支援を兼ねて金沢で宿泊をしたかったところですが、まだ宿泊できる体制が整っていないとのことで、山代温泉のホテル瑠璃光に宿泊。温泉で旅の疲れを癒した後、宴会で親睦を深めました。

2日目には、蓮如上人ゆかりの吉崎御坊を訪ね、本堂と資料館で理解を深めました。次に寄った雄島ではあいにくの雨と強風でしたが、それでも10名のメンバーが高波をかぶりながら橋を渡り、島から雨に煙る対岸の東尋坊を見てきました。白雲館と同じ明治時代の小学校「龍翔博物館」では、三国湊の発展や丸岡城の貴重な資料に参加者一同、興味津々でした。北陸の歴史やガイドの仕方など大変勉強になり、中身の濃い研修旅行でした。

宿泊先　瑠璃光にて

龍翔博物館

丸岡城

雄島にて

バンザイなこっちゃ！　ヴォーリズ　来日120年記念

「ヴォーリズ氏の八幡町の皆様への感謝」　ハイド記念館長　辻　友子

約2年前、突然、ある方から立派な「額」を頂いた。それはヴォーリズ氏が来日30年経過したときにいろいろな苦難を乗り越え、やっと30年にして生活も落ち着き、この八幡町で一生を過ごすことが出来ると確信を得られるようになった真にその時であろうと思える八幡町民に感謝状を書かれた文章の**「額」**だったのです。そこには、一人の異国人として皆さんにご迷惑をかけてきたお詫びやその中で八幡町の皆様から受けたご親切などへの感謝の思いが綴られていました。その一部を皆様にご紹介をします。どうか皆様も「ヴォーリズ来日120年」の記念すべき時に、当時のヴォーリズの思いに触れてみてください。

※「八幡町」とは当時の呼び名である。「蒲生郡八幡町」　続いて、彼の思いがよく表れている個所をご紹介しておきます。

「満三十年八幡町の住人として暮らさせて頂きました。私は私のよき隣人としての皆様へ、お礼状を差し上げたいと存じます。殊に私は異国人として町の風習をしらずして、いろいろ失敗をやりましたに拘わらず、寛大な心を持って迎えて下され、また近年は格別に、町人の一人として心よく住まわせて下さるのを心から感謝して居ります。（中略）それから私は八幡町が大好きですから、永久にここに居住したいと希（こいねが）ってます。私の両親も私の弟と義妹も又私の話を聞いて、とうとう当地に来る心を合わせて暮らしていてくれたのです。私の近親はこれで全部来てくれました。私の父の遺骨は、北の庄の山麓恒春園に納めてあります。私も又骨を同じ山麓に埋めて貰います。この世界中で私の第二の故郷となった八幡町から、死を以てするも、私は離れたくありません。」

今年、ヴォーリズ来日120年の年を数えるようになりましたが、1905年に24歳で、単身で来日したというものの、たった2年間しか生活の保障はなく、八幡商業学校の教え子たちに支えられ八幡町に留まったそのことが、今に至っているのであります。

1902年にカナダのトロントで、生まれて初めて神の声を聴き、チャレンジを受けたことが、神への信頼と**「真理は一つで、何処に行くも水や、空気や、火や、松の樹や、菊の花が、どこの国にも同じ一つのものであるのと相違がありません」**と述べています。そして、**「仏教は印度産ですが、国民の大衆の信仰となり、キリスト教はまた世界宗教として認められているのであります。神道は日本産で立派な宗教となったのです。今や信仰の様式に就いての争いや競争はなくてもよくなりました。皆どの宗教も、真の人、真の世界を求めているのです。」**と彼は来日30年で自分の日本での生き方を達観したのではないだろうか、そして神への感謝と八幡町民へのまなざしに大いに感謝が彼の心から自ずと湧いてきたのではないでしょうか！

（1935年2月「湖畔の声」へ掲載）

（写真ヴォーリズライブラリーより）

「近江八幡」の“魅力”と“良さ”を再発見する！

近江八幡ふるさと観光塾開催

2月15日(土)～3月8日(土)　4回に分けて開講。受講者14名（男性9名　女性5名)。地元の歴史、文化を熟知した講師と私達の会員が町並みを案内するという内容で、近江八幡市を訪れるお客様が八幡の歴史・文化・町並み等の魅力を感じて、新しい旅となるような観光市民講座です。(講座報告次号に続く)

挨拶　総合政策部観光政策課課長　西村喜代仁氏

八幡堀の散策　第１回　広報部

２月５日広報部の前川房夫さんによる八幡堀の散策が開催されました、参加者は21名。始めは白雲館にて、議題は「江州蒲生郡八幡町惣絵図」秀次時代から江戸時代へと移り変わってゆく様子、幕府領と朽木領、小堀遠州等々、興味深いお話が聞けました。続いて少しの時間でしたが時折雪が舞う中白雲館より明治橋、新町浜までを散策。

今回も新しい知識や情報が満載の散策でした。次回も引き続き「八幡堀の散策」を予定しております。 お楽しみに！

ガイドさんの趣味

「色鉛筆画」　武藤　宏行

近江を終の棲家と定めて、素晴らしい景色に毎日出会え、本当に幸せに感じています。観光という専門的見地からも、国の重要伝統的建造物群保存地区、重要文化的景観、琵琶湖とその水辺景観などの日本遺産や、ラムサール条約湿地帯等、更に私たちが気軽に見られる国宝・重要建造物も京都、奈良に次ぐ多さと、この近江は見るべき景観が大変多いところなのです。

それ等を一人で見ても楽しいのですが、他人様にも紹介したくなってガイドを始めることになり、現場から離れた場所の説明には言葉より画像が欲しくなり、写真でも良いのですが、自分の感動した景色はやはり絵なのかなと自分で描く様になりました。

国宝・重文・名所などを描いている中に、いつも目にする身の回りの景色にも魅力を感じて、これも絵にするこの頃です。こうして目にした風景を絵にするのが私の趣味となりましたが、実像をデフォルメして、独自の名画を仕立てる才能はありませんし、以前に齧(かじ)りかけた透明水彩画ならまだしも、子供たちの遊び道具である色鉛筆が画材とあっては、ありふれた風景の具象画など他人様に見ていただく代物では無さそうです。

古人(いにしえびと)が水茎岡山で、その景色に感動して描いた絵に満足できず筆を折った話が在りますが、私は拙いわが道楽を性懲りもなく暫く続けたいと思っています。